

## 湘南 第四回：ペットのシャンプー療法【後編】



前はペットのシャンプー剤についてお話しましたが、今回は具体的なシャンプー方法についてお話ししましょう。

ペットのシャンプーにはヒトとは違い、ちょっとしたコツがあります。

シャンプーと聞くと、毛の汚れを除去するものというイメージが強いですが、皮膚にデリケートなペットや治療などで使用するシャンプーはむしろ皮膚に直接作用するものです。そのため、ゴシゴシ洗うというよりもマッサージをしながら皮膚に

擦り込む感覚で洗浄していただくことより効果的です。水の温度は、皮膚に痒みなどがある場合は少し低めの温度で(20℃くらい)、皮脂の汚れや痂皮などがある場合は少し高めの温度で行うとさらに効果的です。

シャンプーの時間ですが、5～10分はかけていただくことをお勧めします。5～10分というと短時間に感じますが、実際シャンプーをしてみると意外に長時間です。タイムウォッチなどで計りながら皮膚のマッサージの感覚で行うと良いです。



次はすすぎですが、十分に皮膚へシャンプー製剤が浸透した後は、皮膚表面の洗剤成分をしっかりと洗い流します。これも10分ぐらいかけて洗い流します。

このシャンプーとすすぎへの時間がポイントで、「皮膚の角質層への水分補給(水和)」のためでもありますのでしっかりと行うことがコツになります。

最後に乾燥ですが、これは暑い時期や短毛犬種などではタオルドライを中心に、反対に寒い時期や長毛犬種ではドライヤーなどのエアードライを中心に行ってあげるとよいでしょう。

気を付けたい点としてシャンプー後に、1)皮膚に赤みが出る、2)一週間以上経過しても皮膚を痒がる(主に乾燥が原因)、などといった症状がある場合は、そのシャンプーがペットに合っていないことがありますのでご注意ください。ただし、シャンプー終了時に背中を地面に擦りつけるのは体を乾かす自然の行動なのでご安心下さい。

